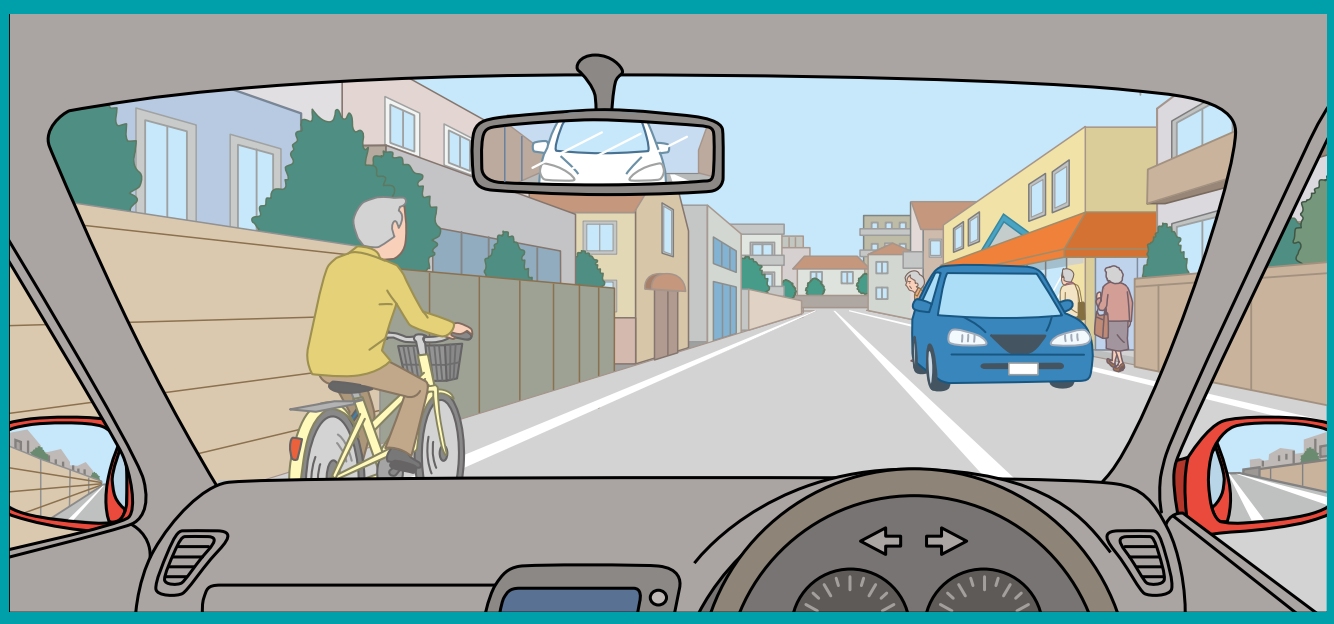
KYT 危険予測トレーニング
第 83 回　自転車を追い越そうとしている時（四輪車編）

交通事故を防止するためには、路上で出会うさまざまな危険を予測することが大切です。このコーナーでは危険感受性を高めるための題材を提供します。今回は四輪車のドライバーに、自転車を追い越そうとしている時の危険について考えてもらうための KYT です。

あなたは生活道路を走行中、左側にいる自転車を追い越そうとしています。安全に走行するためには、どのようなことを予測する必要がありますか？



活用方法

1. 少人数のグループをつくります。
2.「交通場面のイラスト」を見ながら、意見を出し合います。
3. その後、「解答・解説※」を参考にして、どんなことに気をつければ良いか再び話し合ってください。

※「解答・解説」と「交通場面のイラスト（カラー・A4 版）」は下記 SJ ホームページでご覧いただけます。また PDF ファイルもダウンロード（無料）できます。

ホンダ　SJ　検索

【使用上の注意】
●営利目的での利用はおやめください。
●内容の無断転載、無断改変、一部抜粋しての利用はおやめください。
●その他、使用に関するご質問はお問い合わせください。

本田技研工業（株）安全運転普及本部
TEL：03(5412)1736　E-mail:sj-mail@spirit.honda.co.jp

© 本田技研工業（株）

SJ クイズ 高齢歩行者編 ?

Q1 2021 年の歩行中の交通事故死者数を年齢層別にみると、高齢者（65 歳以上）が占める割合は何%でしょう？

①約 57%　②約 67%　③約 77%

Q2 2021 年の高齢歩行者（65 歳以上）の交通事故死者数を時間帯別にみると、最も多い時間帯は次のうちどれでしょう？

① 10 ～ 12 時　② 16 ～ 18 時　③ 18 ～ 20 時

Q3 2021 年の高齢歩行者（65 歳以上）の横断中の交通事故死者数（第 1・第 2 当事者※）のうち、横断違反（横断歩道外横断、走行車両の直前直後横断等）があった割合は何%でしょう？

①約 18%　②約 28%　③約 38%

※第 1 当事者は交通事故の当事者のうち、過失が最も重い者または過失が同程度の場合は被害が最も軽い者。
第 2 当事者は過失がより軽いか、過失が同程度の場合は被害がより大きいほうの当事者。

「解答」は P7 下、「解説」は
下記 SJ ホームページでご覧いただけます。
https://www.honda.co.jp/safetyinfo/sj/

Safety Japan Action 2022

リスペクト ～あなたから『おもうこと』『できること』～

Honda では、秋の全国交通安全運動に合わせて「Safety Japan Action（セーフティジャパンアクション）2022」を 9 月 16 日～ 10 月 31 日の期間、Honda の二輪・四輪販売会社や関連会社、各事業所で展開してまいります。混合交通下では様々な交通参加者が道路を利用しています。この秋は“高齢歩行者を事故から守るために～運転するすべての人ができること～”というテーマで展開します。高齢歩行者への理解を深め、交通事故を起こさない行動につなげるためのスペシャルサイトを開設。右の QR コードからアクセスしてください。プレゼントも用意しておりますので、多くの皆さまのご参加をお待ちしています。

※二輪・四輪販売会社でお配りする QR カードからもアクセスできます。

Safety Japan Action
QR カード

二輪・四輪販売会社で配布している安全運転情報誌「Think Safety」

スペシャルサイトへアクセス▶

SJ 編集部だより
～交通事故死者ゼロをめざして～

高齢者でクルマを運転している人の多くが「1 日でも長く運転を続けたい」と思っているのではないだろうか。
改正道路交通法の施行によって、75 歳以上の運転免許証更新のハードルが上がった。今後、運転免許証を更新できないケースも増えていくと考えられる。都市部で生活していれば、運転免許証を手放してもほかに移動の選択肢がある。しかし、公共交通機関が充実していない地域で暮らす高齢者にとっては、病院に通うこともままならない。
今号の SJ インタビューで取材した ITARDA・小菅さんが提唱するように、高齢者になる前の段階から自分の運転の悪いクセを把握し、それを改善することが運転寿命を延伸するカギになるといえる。
Honda の交通教育センターや JAF（(一社）日本自動車連盟）では、安全運転のためのスクールや講習会を開催している。また、自動車教習所の中にも、運転免許取得者向けの教習を用意しているところがある。これらはクルマの免許を持っている方なら誰でも申し込めるため、高齢者になる前から定期的に受講すれば、常に現状の運転能力を知ることができるはずだ。1 日でも長く安全に運転を続けるためにも、こうした機会を活用してほしい。